

基礎看護学実習

1. 実習目標

1) 基礎看護学実習 I

- (1) 病院での対象者や看護活動の実際を見ることにより、対象者と看護について理解を深め、看護の学習への動機づけとする。
- (2) 日常生活の援助技術を実施し、観察及びコミュニケーション技術の基礎的能力を身につけ、根拠ある行動の理解を深める。

2) 基礎看護学実習 II

- (1) 看護実践をとおして、看護を展開する基礎的方法を理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
1 年 次	基礎看護学実習 I	病院実習	2 単位
	基礎看護学実習 II	病院実習	2 単位

3. 実習内容

1) 基礎看護学実習 I

- (1) 対象者から病院で生活している様子や思いを聞き、対象者の療養環境を理解する。
- (2) 病院での看護活動の一部を知る。
- (3) 対象者の生活状況から生活の自立度を考え、援助の必要性とその方法を理解する。
- (4) 対象者への看護援助を介助・実施する。
- (5) 看護援助を通して、根拠ある行動を理解する。
- (6) 看護援助を通して、対象者の反応および状態の変化についての観察を行う。
- (7) 看護援助を通して、対象者とのコミュニケーションの基礎的技術を理解する。
- (8) 看護師としての基礎的な姿勢を理解する。

2) 基礎看護学実習 II

- (1) 対象者の身体・心理・社会的状況から、対象者の状態を理解する。
- (2) 対象者の現在の状況を整理・分析し今後の方向性を考える。
- (3) 対象者の状況に応じた看護計画を立案する。
- (4) 立案した計画を対象者の状況を考慮して実施・評価する。
- (5) 看護師としての基礎的な姿勢を理解する。

地域・在宅看護論実習

1. 実習目標

1) 地域・在宅看護論実習 I

- (1) 居宅で療養している人が利用できる施設での看護活動の実際を知る。
- (2) 居宅で生活している高齢者への地域での支援の実際を知る。
- (3) 施設へ入所している高齢者が、居宅での生活ができるための看護活動の実際を知る。
- (4) 居宅で療養している人の生活と訪問介護の実際を知る。

2) 地域・在宅看護論実習 II

- (1) 地域での施設の役割を知る。
- (2) 施設で生活する高齢者の特徴が理解できる。
- (3) 施設で生活している高齢者が利用する施設での看護活動の実際が理解できる。

3) 地域・在宅看護論実習 III

- (1) 訪問看護ステーションのある地域の特徴を知る。
- (2) 訪問看護導入の経過について理解できる。
- (3) 対象者とその家族の療養生活への看護活動が理解できる。
- (4) 社会資源の活用方法と関係職種との連携について理解できる。
- (5) 訪問看護における看護師の役割について理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
2 年 次	地域・在宅看護論実習 I	介護老人保健施設 ヘルパーステーション 心身障害者福祉センター 地域包括支援センター	1 単位
	地域・在宅看護論実習 II	介護老人福祉施設	1 単位
3 年 次	地域・在宅看護論実習 III	訪問看護ステーション	1 単位

3. 実習内容

1) 地域・在宅看護論実習 I

A 介護老人保健施設

(1) 目的

要介護者が居宅における生活を営むことができるよう心身の機能の回復・維持を図るための支援の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①介護老人保健施設の役割と機能が理解できる。
- ②対象者の居住する地域や在宅の状況をふまえた心身の機能回復を図るための支援の実際を理解する。
- ③対象者が地域で生活を営むための環境の調整とそれを支える職種間の連携の実際を理解する。

B ヘルパーステーション

(1) 目的

訪問介護を利用している療養者や家族の生活を知り、援助の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①療養者と家族を生活者としてとらえることができる。
- ②療養者と家族の生活がわかる。
- ③ホームヘルパーの役割が理解できる。
- ④看護職の役割について考えが深められる。

C 広島市心身障害者福祉センター

(1) 目的

心身に障害のある人々への理解を深め、障害のある人々に対する支援のあり方と社会資源の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①心身に障害のある人々の環境について考えることができる。
- ②心身に障害のある人々の社会参加の実際と支援のあり方を理解できる。
- ③心身に障害のある人々に対する看護職の役割を考えることができる。

D 地域包括支援センター

(1) 目的

地域で生活する高齢者やその家族への支援について学ぶ。

(2) 目標

- ①地域包括支援センターの役割と機能について理解できる。
- ②地域包括支援センターにおける支援の実際についてわかる。

2) 地域・在宅看護論実習Ⅱ

A 介護老人福祉施設

(1) 目的

常に介護が必要な対象者が、施設においてその人らしい生活を営むための支援の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①介護老人福祉施設の役割と機能が理解できる。
- ②施設での対象者の生活が理解わかる。
- ③その人らしい生活を営むための生活環境と支援の実際がわかる。

3) 地域・在宅看護論実習Ⅲ

A 訪問看護ステーション

(1) 目的

訪問看護の実際場面から、対象者とその家族の療養生活の様子を知り、在宅看護における訪問看護師の役割と機能を理解する。

(2) 目標

- ①療養者と家族が暮らしている地域の特徴を知る。
- ②療養者の訪問看護の経過と目的が理解できる。
- ③療養者と家族への看護活動の目的と必要性がわかる。
- ④療養者が活用している社会資源がわかる。
- ⑤多職種連携の必要性と方法について理解できる。

- ⑥体験した事例から訪問看護師の役割について理解できる。
- ⑦看護師としての基本的態度を身につける。

成人・老年看護学実習

1. 実習目標

1) 成人・老年看護学実習Ⅰ

- (1) 急性の状態にある対象者・家族の特徴を理解できる。
- (2) 手術に対する生体反応と成人期及び老年期の患者の特徴をふまえた回復過程が理解できる。
- (3) 周手術期にある対象者の早期回復を目指した看護が理解できる。
- (4) 機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

2) 成人・老年看護学実習Ⅱ

- (1) 生活機能障害のある対象者への看護が考えられる。
- (2) 疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。
- (3) 退院後の生活を見据えた多職種連携の必要性を考えることができる。

3) 成人・老年看護学実習Ⅲ

- (1) 対象者のエンパワメントを支援する援助を考えることができる。
- (2) 慢性疾患を有する人の体験することについて理解できる。
- (3) 対象者の意思決定とその人らしい生活に向けた援助について理解できる。
- (4) 慢性期にある対象のチーム医療の連携と看護師の役割が理解できる。

4) 成人・老年看護学実習Ⅳ

- (1) がん治療を受ける対象者の看護が理解できる。
- (2) 全人的苦痛を緩和するための基本的な看護について理解できる。
- (3) 最期を迎える対象者および家族の心理を発達課題と合わせて考えることができる。
- (4) 尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
2 年 次	成人・老年看護学実習Ⅰ 急性期にある対象者の看護	病院実習	2単位
	成人・老年看護学実習Ⅱ リハビリテーション期にあ る対象者の看護	病院実習	2単位
	成人・老年看護学実習Ⅲ 慢性期にある対象者の看護	病院実習	2単位
3 年 次	成人・老年看護学実習Ⅳ 終末期にある対象者の看護	病院実習 緩和ケア病棟	2単位

3. 実習内容

1) 成人・老年看護学実習Ⅰ（周手術期にある対象者の看護）

A 病棟

(1) 目的

周手術期にある対象者及び家族の看護を理解する。

(2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②急性の状態にある対象者・家族の特徴を理解できる。
- ③手術に対する生体反応と回復過程が理解できる。
- ④周手術期にある対象者の早期回復を目指した看護が理解できる。
- ⑤機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

B 手術室（見学）

(1) 目的

手術前後の看護師の役割及び手術看護について理解する。

(2) 目標

- ①手術を受ける患者や家族の特徴を理解する。
- ②手術室における看護の実際から看護師の役割が理解できる。
- ③手術室における医療チーム間の連携と看護師の役割が理解できる。

2) 成人・老年看護学実習Ⅱ（リハビリテーション期にある対象者の看護）

(1) 目的

回復期からリハビリテーション期にある対象の特徴を理解し、その変化に応じた看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③生活機能障害のある対象者への看護が理解できる。
- ④疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携や社会資源の必要性を考えることができる。

3) 成人・老年看護学実習Ⅲ（慢性期にある対象者の看護）

(1) 目的

対象の発達段階をふまえ、慢性期疾患をもつ対象者とその家族に対しての看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③対象者の意思決定とアドヒアランスを支援する看護を理解できる。
- ④慢性疾患を有する人の体験することについて考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携の必要性を理解できる。

4) 成人・老年看護学実習Ⅳ（終末期にある対象者の看護）

A 病棟

(1) 目的

最期を迎える対象を全人的に捉え、対象に必要な看護の実践を学ぶ。

(2) 目標

- ①がん治療を受ける対象者の看護が理解できる。
- ②全人的苦痛を緩和するための基本的な看護について理解できる。
- ③最期を迎える対象者および家族の心理を発達課題と合わせて考えることができる。
- ④尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

B 緩和ケア病棟

(1) 目的

最期を迎える対象を全人的に捉え、人生の最後の時期を支える看護の実際を学ぶ。

(2) 目標

- ①緩和ケア病棟における患者や家族の特徴が理解できる。
- ②緩和ケア病棟における看護の実際から看護師の役割が理解できる。
- ③緩和ケア病棟における医療チーム間の連携と看護師の役割が理解できる。
- ④尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

小児看護学実習

1. 実習目標

- 1) 子どもの成長・発達を理解し、特徴をとらえることができる。
- 2) 子どもの成長・発達に応じた日常生活について理解できる。
- 3) 健康問題が子どもに及ぼす影響を理解し、必要な看護援助を考えることができる。
- 4) 健康問題をもつ子どもの家族に対する看護の必要性が理解できる。
- 5) 子どもの健康の保持・増進、健全な成長を促進するための看護師の役割が理解できる。
- 6) 看護師が子どもに与える影響を考え、看護師に必要な態度について考えることができる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	小児看護学実習	保育園 総合周産期母子医療センター NICU・GCU 小児外来 小児病棟	2単位

3. 実習内容

A 保育園実習

1) 目的

乳幼児の成長・発達が理解できる。

2) 目標

- (1) 乳幼児の成長・発達を知る。
- (2) 乳幼児の生活を知る。
- (3) 乳幼児個々に合った日常生活の援助のあり方、発達に応じた保育のあり方について考えることができる。

B 小児病棟実習

1) 目的

小児各期の子どもの特徴を理解し、各健康レベルにある子どもと家族に必要な看護が理解できる。

2) 目標

- (1) 患児の成長・発達をとらえ、それに対する援助方法を考えることができる。
- (2) 入院による環境の変化が、患児に及ぼす影響について考えることができる。
- (3) 患児の疾患について病態生理・症状・治療内容等が理解できる。
- (4) 患児の健康レベルに応じた援助を考えることができる。
- (5) 家族を含めた看護について考えることができる。
- (6) 患児の安全を守るために必要な事故防止ができる。
- (7) 小児看護における看護師の役割について考えることができる。

C 小児外来実習

1) 目的

子どもの健康の保持・増進、健全な成長を促進するための看護師の役割が理解できる。

2) 目標

- (1) 外来で行われている処置、検査、治療を見学し、必要な援助を考えることができる。
- (2) 受診に至るまでと診察中の患児、家族の思いについて考えることができる。

D 総合周産期母子医療センター（NICU・GCU）実習

1) 実習目的

医療的処置が必要な新生児とその家族に対する看護について理解できる。

2) 実習目標

医療的処置が必要な新生児の生理的特徴を理解し、看護の実際が理解できる。

母性看護学実習

1. 実習目標

- 1) 妊娠によって起こる母体の生理的変化と胎児の発育状況を知り、妊娠中の健康管理の実際が理解できる。
- 2) 分娩各期の経過と母体の生理的変化を理解し、分娩経過に応じた看護の実際が理解できる。
- 3) 産褥期の生理的変化を理解し、必要な看護と保健指導の実際が理解できる。
- 4) 新生児の特徴や生理的変化を理解し、必要な看護の実際が理解できる。
- 5) 新生児を迎える家族の状況に合わせた看護の実際が理解できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	母性看護学実習	病院実習	2単位

3. 実習内容

1) 産婦人科外来：妊婦の看護—妊婦健診・母親学級

- (1) 産科・産婦人科外来の特殊性が説明できる。
- (2) 妊娠によって起こる母体の生理的変化と胎児の発育状況が言える。
- (3) 妊婦健診の必要性が理解できる。
- (4) 外来における保健指導の必要性が言える。

2) 分娩室：産婦の看護—分娩各期の看護（正常分娩・家族看護）

- (1) 分娩経過の観察ができる。
- (2) 分娩経過に応じた看護を考えることができる。
- (3) 家族を含めた看護の必要性が理解できる。

3) 褥室：褥婦の看護—産褥期の看護（褥婦・新生児及び家族を含めた看護）（看護過程）

- (1) 産褥期の経過と母体の生理的変化が理解できる。
- (2) 産褥期に必要な基本的看護援助が理解できる。
- (3) 対象とする母子の全体像が理解でき、必要な看護援助を考えることができる。
- (4) 援助計画に沿って実施できる。
- (5) 実施した看護について評価・修正ができる。
- (6) 褥婦の進行性・退行性変化に対する観察と援助ができる。
- (7) 褥婦に必要な指導ができる。

4) 新生児室：新生児の看護

- (1) 新生児の生理的変化が理解できる。
- (2) 新生児に必要な看護が理解できる。

精神看護学実習

1. 実習目標

- 1) 精神に障害のある対象を身体的・心理的・社会的側面から捉え理解する。
- 2) 精神に障害のある対象の健康状態を判断し、対象の力を活かした生活援助をする。
- 3) 精神症状に応じた治療内容と対象への援助を理解する。
- 4) 精神保健医療福祉サービスの目的や職種の連携を学び、看護の役割を理解する。
- 5) 対象を尊重して治療的コミュニケーションを促進することで援助関係が構築できる。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3年次	精神看護学実習	病院実習 精神科デイケア	2単位

3. 実習内容

A 病棟実習

1) 目的

- (1) 入院治療を受けている患者を理解し、患者の力を活かした生活援助をする。
- (2) 患者の意思を尊重したコミュニケーションにより、援助関係を構築する。
- (3) プロセスレコードを用いて、自己の対人関係の課題を明確にする。

2) 目標

- (1) 患者を身体的・心理的・社会的側面から査定し、日常生活の援助ができる。
 - ①入院患者の安全・保護のために整備された治療環境が理解できる。
 - ②患者に出現している症状と健康な精神活動が把握できる。
 - ③患者がこれまでの生活環境で獲得した生活能力を発達課題に沿って分析できる。
 - ④精神症状に応じた治療目的と内容を理解して、対応ができる。
 - ⑤精神症状や生活環境が患者の日常生活に与える影響が理解できる。
 - ⑥患者に関する情報や看護目標を看護チームで共有できる。
 - ⑦患者の力を活かした生活援助を行い、評価ができる。
- (2) 患者の生活を支える職種の役割が理解できる。
 - ①現在と今後の生活を医療福祉の面から考え、他職種の支援内容が理解できる。
 - ②今後の生活に必要な社会資源を考えることができる。
- (3) 患者の意思を尊重して関わることで、援助関係が構築できる。
 - ①患者と適切な距離をとり、生活行動を共にできる。
 - ②傾聴や共感などのコミュニケーション技法により、患者の発言を促し気持ちが理解できる。
 - ③患者に出現している精神症状・状態像を理解した関わり方ができる。
- (4) プロセスレコードを用いて、自己の関わり方について考えることができる。
 - ①その時の思考や感情に気づき、患者と自己の言動の分析ができる。
 - ②自己の関わりの傾向やコミュニケーション技法の活用を見直し、課題を明確にできる。

B 精神科デイケア

1) 目的

地域治療としてのデイケアの目的と看護を学ぶ。

2) 目標

- (1) デイケア利用者に関わり、プログラム等に取り組むことでデイケアの目的が理解できる。
- (2) デイケアでのスタッフの関わりから看護師の役割が理解できる。
- (3) デイケア利用者の生活に必要な支援を他職種の見点で理解できる。

統合看護実習

1. 実習目標

- 1) 複数の患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護判断、看護の提供方法を学ぶ。
- 2) 病棟における一勤務帯の業務の流れを理解することにより、看護師の役割と責任を総合的に理解できる。
- 3) 病棟における看護管理の実際を体験し、看護師としての責任と自覚を養う。
- 4) チーム医療、多職種との協働におけるマネジメントの実際を学ぶ。

2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	統合看護実習	病院実習 医療支援センター 客観的臨床能力試験（OSCE）	2単位

3. 実習内容

A 病院全体オリエンテーション

1) 目的

病院・病棟での看護管理を理解し、看護師としての責任と自覚を養う。

2) 目標

- (1) 病院、看護部の理念、病棟目標設定の関連について理解する。
- (2) 病棟（病院）におけるリスクマネジメントについて理解する。
- (3) 看護部組織・病棟職員構成要員とその役割を理解する。

B 病棟実習

1) 目的

- (1) 病棟における一勤務帯の業務の流れを理解することにより、看護師の役割と責任を総合的に理解できる。
- (2) 複数の患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護判断、看護の提供方法を学ぶ。

2) 目標

- (1) 病棟の看護管理・運用について理解する。
- (2) 病棟構成員のマネジメント・教育体制を理解する。
- (3) 病棟の物品の管理運用を理解する。
- (4) 患者に関する諸手続きを理解する。
- (5) 患者へのサービスマネジメントを理解する。
- (6) 患者の情報共有と管理について理解する。
- (7) リーダー看護師の役割と業務内容が理解できる。
- (8) メンバー看護師の役割と業務内容が理解できる。
- (9) 夜勤の看護師の役割と業務内容が理解できる。
- (10) 勤務間での継続看護の実際を知る。
- (11) 受け持ち患者（複数）の状態把握と、援助の優先順位が考えられる。
- (12) 患者に必要な援助が提供できる。
- (13) 適切な時期に的確な報告・連絡・相談ができる。

C 医療支援センター

1) 目的

チーム医療、多職種との協働におけるマネジメントの実際を学ぶ。

2) 目標

- 1) 医療支援センターの役割と業務内容が理解できる。
- 2) 関連部門との連絡調整を理解する。
- 3) 他部門との連絡調整を理解する。